



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

夏

平成23年

2011年8月

会報 第54号



定期総会の一コマ

目次

巻頭 アフターケアの真価

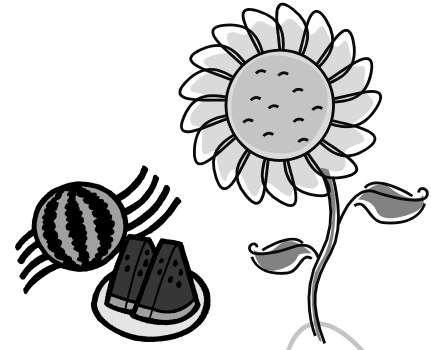
「だいじ家」より挨拶

多門さん より挨拶

事務局報告

理事会総会報告

コンサート報告 その他



今年度から通信の発行が年2回になりました。そのため少しボリュームがある通信になってしまいますが、どうぞ最後までお付き合いください。6月に役員改選があり、福田理事長が再任になりました。

アフターケアの真価

理事長 福田 雅章

児童養護施設の目的に「・・・退所したものに対する相談その他の自立のための援助を行う・・・」とある。先日、講師を務める大学で学生に「施設職員として退所後の子どもにどんなことができるか」と問うた。いろいろ出たが、要は「困ったときに相談に応じる」「生活状況を把握する」といったところだ。でも施設退所後の子ども達にはそんなことでは済まされない困難が待ち受けている。

金銭的にはいつもギリギリの生活だし、失業すれば住居そのものを失う虞が出てくるし、転職や転居をしようにも保証人がいなかったりと。失敗してもいつでも帰っていける実家をもたない（あったとしても機能していない）ということはそういうことなのだ。実家があれば失敗を繰り返しながらゆるやかに自立していけるのが、それができないから自立する力がないのに自立を強いられる。

先日、施設長を務める施設で、職員から退所した女の子について相談を受けた。高卒で施設を出て1年余り。アパートで独り暮らし。非正規雇用で収入は月10万円ほど。社会保険にも加入していない。預金は10万円に満たない状況だ。その彼女に職員が「こんど成人式だね。どうするの?」と聞くと、「できないのわかっているから、あきらめている」

とのこと。切ない話だ。この春高校を卒業した長女宛に、まだ1年以上も先だというのに、成人式の着物のDMがたくさん届く。それくらい成人式は女の子にとってみれば人生の一大儀式なのだ。

施設退所後の援助いわゆるアフターケアは、現に困難に遭遇している子どもに何ができるのか、子どもの人生の節目（例えば成人式や結婚式など）にどう向き合うのか、つまりはその子の人生にどう寄り添うのかによって真価が問われるのだろう。自立援助ホーム（星の家）も退所児童等アフターケア事業（だいじ家）もそのことを大切にしなければならぬと思う。

先日、厚生労働省が、児童養護施設の定員を現行の約3万人から段階的に3分の1近くまで縮小するとの最終案を取りまとめたとの報道があった。縮小分の受け皿は、グループホーム（地域小規模児童養護施設を指すと思う）などの小規模施設、養育里親、そして里親型のファミリーホームということだ。養育形態がどうであろうと、社会的養護にあった子どもには実家がなかったりあっても機能していないという問題が残る。アフターケアはいつの時代でも子どもの自立にとって必要不可欠のことなのだ。

5月から「だいじ家」が宿郷に移転し新しく事務所を構えました。それにともない2名の方がスタッフとして来てくれました。今回は「だいじ家」代表を務めてくれている塩尻真由美さんに寄稿していただきました。

「だいじ家」より挨拶

「だいじ家」代表 塩尻 真由美

はじめまして。だいじ家の塩尻真由美です。

だいじ家が、「星の家」から引っ越ししてから早くも3ヶ月が過ぎようとしています。

開所の際には、たくさんの方に励ましの言葉やお祝いの花、そして食器やタオルなどの寄付をいただき本当にありがとうございました。

県外から備品が送られてくることも多く、改めて支える会のネットワークの広さに驚きつつ、みなさんの応援を受けて私自身しっかりしなくては・・・!!と身の引き締まる思いがしています。だいじ家では、毎週水曜日に夕食会を開催しています。

毎回6～8名くらいで、食卓を囲んでいます。最初のころは、みんな緊張をしていたようですが（私は料理にはまったく自信がなく、毎回ドキドキです。）会を重ねるたびに打ち解け、夕食後も楽しくおしゃべりしています。

先日、片付けをしながら、好きなテレビ番組の話などで盛り上がっているみんなをみて、「だいじ家もちよっとはみんなの居場所になれてるかなあ？」とぼんやり思いました。

だいじ家に来る人たちのほとんどは社会的養護

の当事者です。

一人一人、いろいろな思いを抱えながら日々の生活を送っています。

私も15年間児童養護施設で生活をしました。しかし、施設で育ったことをずっと隠して生活していました。そして、普通の家庭で育った友達や同僚たちと自分の境遇を勝手にくらべ、「なんで私ばかりこんなことに・・・!!」と辛くなることもたくさんありました。

だいじ家との出会いは、私にとって人生の大きな転機となりました。今まで否定的だった過去を公表することで自分自身を認め、人に伝えていくことが私の役割だと思うようになりました。

私もだいじ家やここに来てくれるみんなに元気をもらっている利用者のひとりです。

だいじ家の職員としてだけでなく、同じ経験をしてきた仲間として、これからもたくさんの人たちと出会っていきたいです。

だいじ家の代表としては、あまりにも微力ではありますが、みなさんの力をお借りしながら頑張りたいと思います。

今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

支える会のバザーやコンサートがこれだけ大きなものになったのに、多門さんの存在は欠かせませんでした。収益事業だけでなく会員拡大に努めて下さったり、事務局の仕事を一手に引き受けて下さいました。支える会にとって多門さんは大きな力です。どうぞこれからもよろしくお願ひいたします！

大変お世話になりました！

多門 孝

先の3月末をもって本会の専従事務局スタッフを退職いたしました。皆様方には長い間大変お世話になりましたこと、感謝し心よりお礼申し上げます。

私は約8年前に東京電力を退職した後、嘱託社員として再雇用を受けて平成16年5月から今日までの約7年間、東京電力からのボランティア派遣として本会にお世話になりました。その本会を

知ったのが2000年の夏、妻の仕事上我が家の庭で毎年夏祭りと呼んでジャズを中心とした屋外ライブを開いていた時に、模擬店の売り上げなどを寄付した養護施設から紹介されたのが「星の家」でした。最初のころは星の家まつりにボランティアとして参加、その後事務局メンバーとして関わりをもつようになったのです。

さて、専従スタッフとして何をしてきたか？と

振り返ると年中行事のまつりにコンサート、そして会報発行程度でこれと言って無い!? が、よくよく思い出してみると今では自前の施設を持つまでになった本会ですが、入りたてのころは、星さん夫婦の心労がピーク状態、そして支える会の年度収支は火の車。星さん夫婦の心労を考えスタッフ増員となりましたが財政は赤字状態、このままでは存続すら危ういという状況に陥りました。その対策として会員募集や寄付集めの積極的なお願い、そしてまつりやコンサートの収益アップと共に「星の家」のPR活動に取り組んだことが思い浮かんできました。

一方、「星の家」の子どもたちとの接触は積極的に持ちませんでしたが、同じ屋根の下にいるわけですから自然と挨拶から日常的な会話程度を持つこととなります。7年間の間に数えきれない子どもたちの出入りがありました。心に傷をもつ子どもたちは私がいることに、最初は挨拶をすると“このじい何者?”と窺いながら返事をする子、無視する子などいろいろでしたが、時間がたつにつれて挨拶が笑顔で返ってくるように。そして今、

「星の家」のOB・OGが100名を超えましたが、ある時、街中を歩いていると工事現場から偶然声をかけられ振り向くと汗いっぱいの作業員のOBが笑顔でいたり、「星の家」に里帰りしたOB・OGから元気!と屈託のない笑顔であいさつを受けたりしますと、ホッと近況を聞くとちょっと成長したかな~と思うのです。そして「星の家」の活動の効果が少しずつですが表れていると感じる時でもありました。

残念なことは最後のご奉仕と思った第14回目のコンサートを開催前日の3月11日に発生した東日本大震災により中止に至ったことです。倉沢大樹さん(共演島田絵里さん、浅香薫子さん)による最後のコンサートでしたが、被害に遭われた方々を考えますと・・・中止に伴い大勢の方々にご迷惑をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。

最後になりましたが、引き続き事務局メンバーとして、そして理事として支える会を支援して行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

事務局報告

理事会・定期総会・研修会報告

6月4日にとちぎ青少年センターにて理事会・総会を開催いたしました。理事会は出席数が3名と少なかったため、書面表決の形をとりました。

議題は役員改選について、予算決算、だいい家運営規程、退職金規程などについて、事前に理事の方から書面での意思決定をいただきました。

定期総会は本人参加14名、委任状参加77名で行われました。議長の石原幹司郎さんの進行でスムーズに進み、予算決算などが、会場の満場一致で決まりました。

役員改選につきましては以下の通りです。

- ・鈴木 征夫さん(任期満了)
- ・多門 孝さん(新理事)
- ・宇賀神 慶子さん(新監事)

星の家の経過報告の後、支える会新任スタッフの紹介がありました。

- ・鈴木 正美さん(星の家スタッフ)
- ・塩尻 真由美さん(だいい家スタッフ)
- ・菊地 知宏さん(だいい家スタッフ)



定期総会の一コマ

続いて研修会も開催され、50名程の参加者が集まりました。「社会的養護の当事者から見た自立支援のあり方」の議題にそって、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」から清水真一氏をゲストに招き鼎談形式で行いました。

その内容をまとめましたので、ご覧下さい。

中央地区研修会報告

テーマ『社会的養護の当事者から見た自立支援のあり方』

報告者 本会理事長 福田雅章氏
こどもっと代表 清水真一氏
だいじ家スタッフ 塩尻真由美氏



研修会の一コマ

福田：初めに自己紹介からしたいと思います。私は3歳で母親を事故で失いました。父が養育に困り、姉は母親の実家に預けられ、私と弟は父親と父の実家で暮らしました。その後、5歳で養徳園に預けられました。そこで小学校の途中まで生活し、父が再婚したことで家庭に引き取られました。私が大学を出て、中学校の教師になったときのことです。先代の養徳園の施設長に「後をやるのか」といわれて、平成5年に教師を辞め施設の職員になりました。平成7年11月から施設長になり、今年で16年目になります。今は支える会の代表もしています。

清水：初めまして。社会的養護の当事者グループ全国ネットワークこどもっと代表の清水です。私は生まれも育ちも名古屋です。私が3歳の時に両親が協議離婚し、3～5歳まで父親と生活をしました。私が5歳の時に父親が再婚しました。小学校3年生の夏まで一緒に生活をしました。うっすらと覚えているのですが、学校から帰ると家に誰もいなくて、父親が借金をつくって出て行ってしまったと。母親とは離婚し、小学3年生の時に施設に入り高校3年生まで生活しました。施設は2カ所行きました。

高校を卒業し、高齢者施設で4年間働きました。その後自分が育った施設の法人で老人ホームを造ると自分が育った施設の施設長から話があり老人



ホームに併設しているデイサービスセンターの新規立ち上げ責任者や相談員として6年間勤め、法人間異動で、自分の育った施設で児童指導員として働きました。かねて希望していたことでしたので、夢が叶いました。また、名古屋で当事者のグループを立ち上げ、現在は全国の当事者グループの代表としてやっています。今年からは東京の社会福祉法人で法人職員として仕事をしています。**塩尻：**だいじ家の塩尻です。私は3歳から施設で暮らしました。入所の経緯は養育放棄だと聞いています。初めて施設に行った日のことを覚えています。母に「お友達がいっぱいいるところに行く？」と聞かれ、私は“幼稚園か保育園かな”と思っただけのところは児童養護施設でした。その日、夜になってもなぜかお母さんが居なくてとても不安な夜を過ごしたことを覚えています。それから高校卒業まで15年間児童養護施設で生活しました。

高校を卒業して、バスガイドの仕事につきました。それから行政書士事務所に勤務し、その後、7年間化粧品会社に勤め、今年の4月からだいじ家のスタッフとして勤務しています。

福田：施設に入ってから親や親族との関わりを聞かせて下さい。

清水：実の両親は行方不明でどうしているかわかりませんが、再婚相手の母親と義理の弟とは時々会っています。

塩尻：私は元々戸籍上、母親の私生児として生まれていますので、父親の存在は全く分かりません。母も、顔も分からない状態です。

福田：施設の生活はどうか。

清水：規則があって自分勝手がありませんでした。私がいた施設は小舎制だったので、普通の家庭に近いのかもしれないけど、大人数での生活ですし、職員さんも様々な人がいました。子どもの上下関係が強く、職員の見えないところでの子ども同士の暴力や嫌がらせはありました。個室がないので、自分のプライベートゾーンがない。最近の施設は個室があるので、今の子ども達は恵まれていますね。

塩尻：幼児さんの時代は、楽しかった記憶しかありません。人数が多かったので、イベントが盛大

で楽しかったです。嫌だったことは、個室がもらえず自分の持ち物やお金が盗まれます。他の子が暴力を受けているのを見ていることしかできなかったのは辛かったです。

あとは、家庭育ちの子はバイトしたお金を小遣いとして使えるけど、私は運転免許を取ったり、退所後の生活のために貯金をしていたりであまり自由に使えませんでした。

福田：大人数の子ども達が生活しているということ、その中で子ども達の間人間関係が大変であるということは、共通の課題ですね。

施設と家庭で育つことの違っていて感じたことありますか？

清水：小学校3年生までは家庭で育ちましたが、あまり覚えていないですね。いい思い出がないからなのかもしれないけど。僕は施設を出てから、養護施設以外の社会的養護の方法もあることを知って、ファミリーホームや地域小規模など、選べたらいいなと思いました。

施設で育ってきて、人との出会いはとても良かったです。職員さんとの出会いがあったから頑張れるし、いつか家庭を持つときにこんな風にできるといいなって思う。

塩尻：「帰れるところがある」というのは絶対的な安心感が違うと思う。私は転職するたびに、“どうやって生きていこう”って不安が大きかった。

でも友人は、ちょっとゆっくりするということができるので、安心感は違うと感じてきました。



福田：児童養護施設の子どもの高校進学できるようになったのは昭和48年から。それまではどんなに学力がある人も全員就職していました。家庭では、高校進学は当たり前という環境。そこは大きな違いですね。

では、**実際施設を退所してから、社会生活で不利益を感じたことはありますか？**

清水：施設育ちであることを言うと、周りに驚かれたり、保証人の関係で困ったりすることはありました。

施設には自分がちゃんとやってる姿は見せに行けるのですが、自分が本当に困ったときには恥ずか

しくて言いに行きづらかったですね。

塩尻：高校3年生で就職先を決めるときに、住み込みの職業というのが絶対条件で、業種が限られていました。いざバスガイドになり、あるとき同期が当然のように帰省していく中で自分だけ帰るところがなくて。でも施設出身であることは隠していたのでとりあえず宇都宮に帰ってはきたものの、行く当てもなく泊めてくれる友だちを探していたときに施設を出るってこういうことなんだなって感じました。

福田：施設を出た状況には、施設の職員も目を背けていたと感じています。何かあったら帰っておいでよとは言いますが……。家庭で育つと、自分が家を出てからも自分の部屋が残っているけれど、施設の場合は、自分が退所したら必ず違う子どもが部屋を使っています。また、職員の忙しさも子ども達はよく分かっていますし。自分が施設に戻ることは施設の迷惑になるんじゃないかという意識がある。本当だったら施設全体でかかわっていければいいのですが、施設の体制が、相談にきたくてもきてはいけないうらやまを発しているのかなという気がします。

では、**施設で育って良かったことは？**

清水：招待行事が多かったことです。野球やサーカスを観に行くとか。あとは、施設が集まる運動会や海に行く企画があって、他の施設の子も達と集まるのが楽しかったですね。

塩尻：自分でいうのもなんですが、性格的にたくましいと思います。あとは行事をすごく大切にしてくれていて、いい経験ができました。いい職員さんとの出会いが多く楽しかった思い出が多いです。

福田：私は“自分がしっかりしなければならぬ”という意識はかなり強かったと思います。一番良かったのは、先代の施設長との出会いでした。いい人との出会いは人生の支えになると思います。います。ここから皆様からの質問を頂戴したいと思います。

参加者：自分の兄弟とのかかわりはどうなっていますか？また、施設出身者とのつながりはありますか？

清水：兄弟は一応つながっています。あまり行き

来していませんが、何かあれば連絡を取ります。出身者については、自分が職員をやったので、その時の子ども達とかかわりがあります。

塩尻：私も兄弟とは繋がっていますが、困ったときに頼るのは、それぞれがかかわっていた職員さんだったりします。

施設出身者とは、連絡とれない子の方が多いです。あとは、自分が施設出身であることを隠したいが為に、施設の子と距離をおいてしまうこともあるので、だいたい家もできなし、これをきっかけに施設出身者が集まれたらいいと思います。

福田：退所した子ども達の同行を把握するのは本当に難しいです。こちらで把握できているのは、退所していった子ども対の1/10くらいですね。つながりがない理由として、施設出身であることを隠したいという場合もあります。施設で育ったことにコンプレックスをもっている子ほど、力がなかつたりもします。本当なら、繋がっていないと生きていけない子たちなのに。

清水さんは、自分が居た施設の児童指導員となって、子どもの気持ちがわかるとおっしゃっていましたが、施設で育つ子ども達に「がんばれ」ということについてどうでしょう？



清水：子どもたちは施設を出たあとの生活にとっても不安があるんですね。僕は、一般家庭で育った子たちよりも、頑張らなくてはいけないとは思いますが、あまりそうも言えないですし、頑張ってみてダメだったらおいでと言うようにしています。

塩尻：施設で暮らしているだけで十分頑張っていると思うんですね。小さい子が1人で寝ているんですよ。大きくなっても、ほしいものを買ってもらえないし、理不尽なことがいっぱいある。退所しても、帰るところがない。だから私は、これ以上何を頑張るの？言われなくても頑張っているよ！と思います。

福田：自立支援に対して、何か必要でしょうか？現在施設にいる子、退所した子、それぞれに対してどうでしょうか？

清水：名古屋のこどもっとでも施設を訪問してい

ますが、施設で育った人が施設を訪問し、こんなことに困ったとか、家賃はこのくらいだとか、一ヶ月で給料がいくらもらえるのかとか、教えてあげることが大切ですね。

あと施設にいるときに職員さんとの関係づくりが大切だなと思います。施設に子どもたちがいる間に、やれることを精一杯やってあげてほしいとおもいます。それは1人だけではできないことなので、職員さん同士のチームワークや理解も必要です。施設を出てからは、子どもはひとりぼっちになるんです。そういうときに、この人だったらしゃべれるなと言う人がいてくれるとありがたいです。

塩尻：入所中の子どもに対しては、できるだけ家庭の子どもと同じ経験をさせてあげてほしいと思います。例えば、バスや電車に乗るときに自分でお金を払うとか、習い事も充実しているといいと思います。

あとは、職員さんとの関係で、たまには「みんなと同じ」じゃなく「自分だけ特別」の時間を作してほしいと思います。例えば、職員さんと子どもで出かけるとか。そういうことって子どもは覚えていると思うんです。

施設の職員の皆さんに対しては、長く勤めてほしいと思います。子どもは、自分のことを忘れないでほしいんですね。自分の幼少期の話を聞くと、そこで自分の存在を確認できるんです。なので、できるだけ長く勤めてほしいと思います。

他の養護施設との交流会をもっとしてほしいなと思います。高校生くらいになると、おたがいに意見交換できたりもするので。私は、それで高校時代に会った子と、出かけたり助け合ったりと、交流が続いています。

退所した子には、会いに行きあげてほしいと思います。施設にいる子どもたちのほうが優先になるとは思いますが、手紙や電話などでいいので“気にかけているんだよ”と伝えてあげてほしいと思います。

あとは、たまに施設に里帰りさせてほしいと思います。たまには、懐かしいご飯も食べたいし、久しぶりに帰ってきた子にお客様扱いで「いらっしゃい」ではなく、「おかえり」といって迎えてあげ

てほしいと思います。

福田：私達は社会的養護の中でどうやって子どもに向き合うか、考えさせられます。

今日、お二人の話を聞いて思ったのは、“居場所の大切さ”と“人とのつながりの大切さ”ですね。子どもは20歳になったら勝手に生きていけるようになるわけではありませんので、繋がり続けることが大切です。

今、児童養護施設は小規模化し、ファミリーホームや里親も増えています。施設の中でも多くの面で改善がされています。それでも、最大20歳までの福祉であるということには変わりありません。なので、子どもの居場所を確実に用意しておくなくちゃいけないですね。そのために、支える会も頑張っていきたいと思います。

本日はありがとうございました。

第 14回コンサート報告(中止)

去る3月12日に第14回青少年の自立を支える会コンサートが開催される予定でしたが、その前日の東北大震災により、中止の判断を致しました。

楽しみにチケットをご購入下さった方や、準備を手伝って下さった方、出演予定だった倉沢大樹さん・島田絵里さん・浅香薫子さんには多大なご迷惑をおかけしてしまいました。しかし震災から4ヶ月たった今でも、被災地の事を思うとコンサートを中止にしてよかったと思います。

その後のチケット・広告代の払い戻しに際しては、多くの方にご辞退をいただきました。これにより、コンサートを開催していないにも関わらず、コンサート部門は赤字になることが避けられました。

本当にありがとうございました。

倉沢さんが、今回のコンサートが幻になってしまった分を「もう一回やるよ」言って下さっています。まだ会場など未定ですが、いずれ実現したいと思っていますので、その時まで楽しみに！

だ いじ家BBQ大会

7月10日、だいじ家主催でバーベキューをしました。

とても暑い日でしたが、鬼怒川の河川敷に集合し、みんなでワイワイ、飲んだり食べたり。子どもたちは（一部大人も？）水鉄砲で遊んだりもしました。お腹いっぱい食べて遊んで、みんな大満足！夏らしい思い出ができました。



みんなで食べると、美味しいね♪



水鉄砲、本気の戦い！！



記念撮影。楽しい一日になりました！

寄

付・会費納入者

敬称略・順位不同

平成23年7月末まで

●正会費

内山成史 仲西美奈子 伊藤米子 坂本真紀子 天池悦子 渡辺ヨシ子 青木孝之 鈴木崇宏 曾根美穂子 桧山康子 加藤恒男 小松カツ工 古澤秀子 黒子一子 寶島文代 中村悦子 市川義章 増茂尚志 塚本明子 早川久子 近藤峰明 喜内敏夫 大平友子 米山雅子 内田和夫 川崎節子 渡辺みゆき 西山智彦 増淵ヨシエ 天野幸子 吉光寺ヒロ子 鈴木征夫 小堀泉 夢沼初枝 石川真由美

【金融機関引落し者】

鷹栖律子 松本基一 中村郁子 星紀彦 柳川外美枝 井田紫衣 館野ひろ子 野中芳久 浅川信明 安城興一 中村和子 豊田省子 伊達新介 伊達悦子 山口京子 横松晃 本間一匡 石島京子 矢野浩美 矢野正広 山田昭利 鈴木啓市 ひまわり会代表荒井敏子 斎藤洋子 本田紘海 増淵民子 多門孝 福田雅章 石原幹一郎 北村光弘 柳田俊 池谷正宏 荒川泰行 手塚美知子

●賛助会費

江田みどり 有馬洋子 小平幸二 東城守 沼尾弘一 和久井隆 和田寿子 手塚二郎 齋藤良子 山口恵子 坂本恭男 松本順子 屋代昌子 太田黒武久 田島千英 影山義恒 本間多一 倉田克己 檜山昌江 豊島優子 日野奈々子 松江比佐子 小倉睦美 和田均 井上紀代子 渡邊里子 土井有里 西岡隆 鈴木由香理 山口慶之助 村上信子 増山誠 永山和江 太田芳一 飯田由美子 小平光志 梶江徳子 鱒淵元成 鱒淵澄子 代田文子 佐藤正行 市村英子 岸礼美 飯塚陽子 林谷政子 林谷和憲 櫻井きよ子 直井茂 白井正枝

【金融機関引落し者】

上田基子 角海京子 浦部延子 村山雅子 竹内美由紀 有限会社在宅サポートこころ 橋本憲子 寺内晴美 岡本貞子 小太刀薫 坂本政子 山口静江 新井重陽 渡辺厚子 児玉恵里 加藤勝子 小林三千代 弁護士法人のぞみ法律事務所 小堀栄美子 日向野トシ子 上明戸晋史 上明戸智子 藤本早 谷崎誠 松島澄子 川辺晋 川辺左知子 山口尚子 佐藤月宏 杉山君子 小野崎千鶴子 福岡昭 井村正治 斉藤好江 松本美佳子 坂本節子

●新入会員

○正会員

崎智江 綱川礼子 渡辺やす

○賛助会員

伊藤孝子 竹原典子

【金融機関引落し者】

市川義章 吉田久枝 君嶋福芳

●寄付金

椎野三千子 サロンひまわり 鵜坂幸 内山成史 菅谷直子 浅香勉 小杉美津江 高橋真知子 伊藤米子 増淵雅子 松田完 有馬洋子 小川八枝子 渡辺ヨシ子 和久井隆 齋藤良子 星紀彦 宇都宮中央ライオンズクラブ 青木孝之 松永昌子 小林恵 飯島恵子 蓑田裕美子 曾根美穂子 桧山康子 日野奈々子 小倉睦美 枝野啓子 だてなおみ 下門敏史 上野統子 土井有里 香倉恵美子 中野英治 中村光子 増茂尚志 青木伸恵 喜内敏夫 渋井洋子 宇都宮南ロータリークラブ 笠原雅江 大平友子 米山雅子 小平光志 山田文子



富士ゼロックス栃木株 富士ゼロックス栃木 ハウスクラブ 加藤美恵子 松本順子 大関孝志 川崎節子 渡辺みゆき 梶江徳子 南坂哲 とちぎコミュニティファンド 石原敏江 今井幸子 吉田久枝 さくら草 代田文子 渡辺桂子 高槻沢町更生保護女性会 増淵ヨシエ とちぎコープ生活協同組合 駒場芳雄 吉光寺ヒロ子 近藤峰明 泗水学園 氏家養護園 イースターヴィレッジ 下野三楽園 マルコの家 小堀泉 鈴木征夫 増淵仁 田村陽子 夢沼初枝 浜野和子 川辺晋 池谷正宏 北川良江 大根田陽子 石川真由美 直井茂 石山佳奈 海老原清修 辻貴子 佐野市更生保護女性会 小村守志

【金融機関引落し者(毎月寄付者)】

鷹栖律子 中村和子 伊達悦子 浦部延子 村山雅子 杉山君子 小野崎千鶴子 福澤宏文 坂本政子 渡辺厚子 児玉恵里 本田紘海 日原典子 井村正治 佐藤貴美子 斉藤好江 小堀栄美子 鎌田篤子 日向野トシ子 多門孝 藤江泰子 谷崎誠

【金融機関引落し者】

松本基一 中村郁子 井田紫衣 館野ひろ子 野中芳久 豊田省子 上田基子 山口京子 横松晃 本間一匡 角海京子 石島京子 寺内晴美 小太刀薫 矢野正広 新井重陽 ひまわり会代表荒井敏子 斎藤洋子 増淵民子 上明戸晋史 上明戸智子 福田雅章 柳田俊 荒川泰行 手塚美知子

●星の家建物購入借入金返済キャンペーン寄付金

今年度7月末現在ご寄付額26万円

(前年度からのご寄付総額584万円)

目標額1,000万円達成まであと416万円

渡辺ヨシ子 加藤美恵子 北川良江 海老原清修 川辺晋

ご不明な点がございましたら当会までお問い合わせください。

所得税の寄付金控除について

平成22年分から寄付金合計額から差し引く控除金額の5,000円が2,000円に引き下げられました。

【編集後記】

暑い日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？星の家の子もたちは、相変わらず毎日元気に過ごしています(^o^)/

さて、夏といえば星の家祭りの準備が始まる季節。今年も少しずつバザーの物品が集まり始めています。今回は震災の影響で明保野体育館が使えず規模を縮小しての実施になりそうですが、ご協力どうぞよろしくお願いたします(^ ^)



【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

*通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

会員種別と金額は、正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。

振込などの手間が要らない「会費等の金融機関引落し」のご利用をお勧めしております!

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会
発行日/ 2011年 8月10日
発行責任者/ 福田雅章
編集責任者/ 曾根俊彦

所在地/ 320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48
電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024
Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp
HP/ http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/